井の頭恩賜公園100年実行委員会

よみがえれ!! 井の頭池!

KAIBORI News

No. 5

2014年12月

●発行
井の頭恩賜公園 100年実行委員会
http://inokashirapark100.com/
事務局：東京都西部公園緑地事務所

●編集
認定NPO法人 生態工房
http://www.eco-works.gr.jp/

報告！ かいぼり後の生きもの調査結果

かいぼり後の水生生物の変化を把握するために、4月からモニタリング調査を実施している。さらにアメリカザリガニの増加を抑制するための防除活動もスタートした。今号ではその結果を報告する。

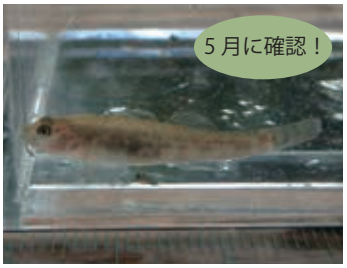
繁殖が確認された 在来生物たち

ギンブナの幼魚

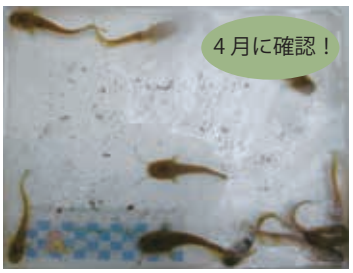
テナガエビの抱卵個体

ヌカエビの抱卵個体

スジエビの抱卵個体（写真は卵なし）



トウヨシノボリの幼魚



ナマズの幼魚

生きものの繁殖状況がモニタリングで明らかに！

井の頭池の生態系に君臨していた外来肉食魚のオオクチバスがかいぼりで駆除された後、在来魚が急速に回復していることがわかった。

ナマズはかいぼりでは40匹しか確認されなかったが、今期は調査日には必ず見つかるような普通種になり、多い日は幼魚を中心に61匹が見つかった。トウヨシノボリ（かいぼり時56匹）は、岸から池底をのぞくと簡単に見つかるほどに殖え、カイツブリが捕食する様子も観察された。ギンブナは、かいぼり時にはオオクチバスからの捕食をまぬがれた大型個体しか生存していなかったが、今期は幼魚が確認された。スジエビ、テナガエビ、ヌカエビは抱卵個体が見つかった。いずれの種もかいぼり前よりも個体数が回復していることは明らかだ。

井の頭池の各所での今期のモツゴ採捕数をまとめた（図1）。お茶の水池とボート池では、稚魚が出現した5月以降、モツゴはほぼ毎回確認された。かいぼりをしなかった弁天池では10月に1回確認されただけだった。ハゼ類、ナマズ、エビ類についても同様の結果であった。かいぼりでオオクチバスのような捕食者が排除された区域では、在来生物が回復していることがわかる。

しかし課題もある。捕食者がいなくなった生態系は、外来魚にとっても好都合だった。かいぼりで捕りきれなかった外来魚が再び繁殖し始めているが、オオクチバスの大型個体が少なくなったので稚魚の生存率が高いのだ。池の中は、在来魚・外来魚ともにたくさんの幼魚がいるというのが現在の状況だ。

外来魚を根絶するまでには、数回のかいぼりを経ることが多い。次回のかいぼりでは今回の課題を活かし、さらなる外来魚の低減化を目指す。

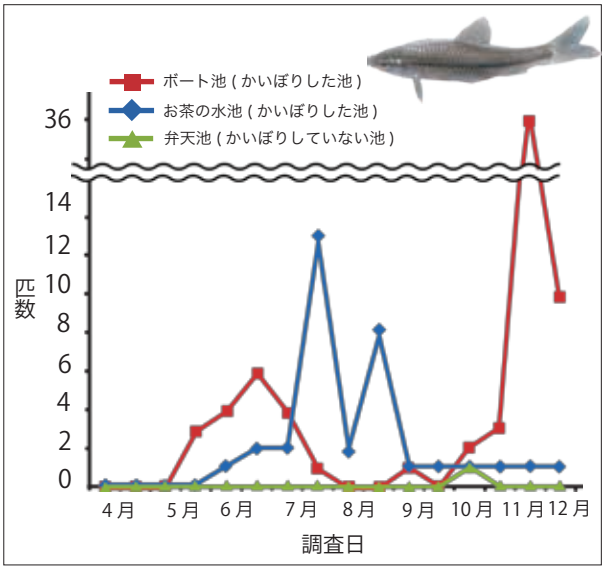
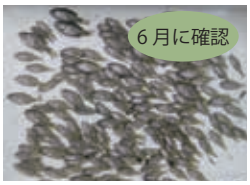


図1. モツゴ採捕数の月別変化

残念ながら… 外来生物の繁殖も確認



ブルーギルの稚魚

オオクチバスの稚魚

モニタリング調査の方法

＊張網（小型定置網）

弁天池、お茶の水池（各2個）、ボート池（1個）に、毎回同じ位置に設置した。

＊タモ網

1人15分間、植物の根元などの魚のいそうな場所を網でガサガサと探った。

アメリカザリガニ防除の結果

オオクチバスが駆除されると、捕食圧がなくなったアメリカザリガニが増加することがある。かいぼり後の井の頭池でもアメリカザリガニ増加の兆候が確認されたので、井の頭かいぼり隊と井の頭かんさつ会がアメリカザリガニの防除を開始した。

アメリカザリガニは池全体に低密度で生息していると思われる。特に水草が生育している浅い区域で多く確認された。ひょうたん池では5231匹とかなりの数が捕獲されている。お茶の水池では1070匹だった。

井の頭池のアメリカザリガニは、早期防除によって爆発的な増加を抑制している状態だ。かいぼり後に貴重な水草が再生しているので、来期も継続的に防除を行い、アメリカザリガニを減らしていくことが重要である。

持ち込まれたさまざまな生きものたち・・・

アメリカザリガニ防除活動では、かいぼり時にはいなかったはずのさまざまな持ち込まれた生きものも見つかっている。これらの生きものが不幸なのはもちろんだが、彼らはもともといた在来種にも被害を及ぼす困った存在でもある。

持ち込まれた生きものは、キンギョ、コイ、ヒメダカ、ドジョウなどの入手しやすい観賞魚が多かった。観賞魚は自然の池には似合わない上に、井の頭池になかった病気や寄生虫をもたらす可能性がある。自然がよみがえりつつある井の頭池に生きものを持ち込まれないよう、啓発活動に力を入れたい。

ペットとして人気のあるミシシッピニオイガメ。4頭見つかった。

タイリクバラタナゴ(♀)
かいぼり時にはいなかった外来種。

かいぼり時にはいなかったコイの若魚（上）。

8月に突如現れた大きなキンギョ。
写真提供：福井善康

いけいけ！かいぼり隊
～池男（イケメン）＆池女（イケガール）、研修に行く！の巻～

今年度のかいぼり隊のミッションは井の頭池でのモニタリング調査だけではない。知識と技術を高めるために4回の研修が計画されているのだ。これまでに2回の研修が終了した。

1回目の研修では、千葉県立中央博物館の林紀男さんの案内により、博物館と印旛沼で水生植物再生の取り組みを見学した。博物館での系統保存と、広大な印旛沼での水草再生という複層的な事例を見学し、水草の保全についての理解を深めた。

2回目の研修では、神奈川県横浜市にある県立三ツ池公園の外来生物防除活動に参加した。三ツ池公園ではボランティアの集まりである「三ツ池公園を活用する会 水辺クラブ」が主体となって2006年から防除活動を行っている。これまでに5回のかいぼりを行いブルーギルの低減化に成功した。今期はかいぼりでは捕獲できないアメリカザリガニを、市民参加型の釣りイベントで駆除している。かいぼり隊も約2時間、アメリカザリガニ釣りに挑戦した。捕獲結果はアメリカザリガニ83匹とミシシッピアカミミガメが1匹。捕獲率が低い初冬にしてはなかなかの漁獲であった。

11月には結成1周年を迎え、1回り大きくなった井の頭かいぼり隊。さらに経験を重ねて次回のかいぼりに臨みたい。

速報　かいぼり報告会開催決定！！

かいぼり後のさまざまな自然の変化についてお伝えする報告会を開催します。

日時：2015年3月8日（日）13:30～16:30
場所：武蔵野公会堂ホール
定員：180名（事前申込）
参加費：無料

演題

①かいぼり25の概要（東京都西部公園緑地事務所工事課）
②ミジンコから池水を考える
～かいぼりが池の水環境保全に果たす役割～
（千葉県立中央博物館　林紀男 氏）
③50年間の休眠、かいぼりで目覚めた水草
（株式会社セルコ　飯島幸子 氏）
④在来魚の回復状況 水生生物モニタリング結果から
（認定NPO法人生態工房　八木愛 氏
井の頭かいぼり隊　山﨑善弘 氏）
⑤かいぼりで変わった水鳥の暮らし
（井の頭かんさつ会　田中利秋 氏）

申込は井の頭恩賜100年実行委員会ホームページにて！
http://inokashirapark100.com/